

姉妹(友好)都市

セントポール市

アメリカ北西部に位置するミネソタ州の州都として栄え、ミシシッピ川の恵みを受けながら農産物の一大集散地を築き、アメリカ北西部の交通の要衝をなしている人口約28万5千人の都市。

隣接するミネアポリス市とは、ミシシッピ川をはさんで双生児のように発達したことから「ツインシティ」と呼ばれており、現在はコンピュータ、科学機器に代表されるハイテク産業が経済の中心をなしている。

ニューヨークの日本国連協会代表ウィリアム・ヒューズ氏が、原爆被災から立ち上がり、平和の歩みを続けている長崎市とセントポール市の都市提携を斡旋したのがきっかけで、その後、国連事務局が両市に勧誘状を出し、昭和30年12月7日に我が国での姉妹都市提携第1号となる。

昭和50年に姉妹都市提携20周年を記念して開始された交換留学生事業やセントポール市における日本庭園整備協力など文化、教養など市民間の交流が盛んに行われている。昭和51年に長崎市に「セントポール通り」を設置。平成4年に本市へ平和モニュメントが寄贈される。

平成17年12月にはセントポール市長および市民訪問団が来崎し、姉妹都市提携50周年記念イベントに参加するなど両市の交流を深めた。

平成19年8月9日には、セントポール市で初めて長崎の原爆犠牲者を追悼する平和祈念式典が開催され、式典の中で長崎の高校生らが「千羽鶴」を合唱した。

サントス市

ブラジル・サンパウロ州の都市で南米最大の貿易港を誇る人口約46万人の港湾都市。近年は、南米随一の観光都市リオに次ぐ観光地として脚光を浴び市の真上を南回帰線が通り、年中海水浴が楽しめるリゾート地である。明治41年に我が国の第一回のブラジル移民船「笠戸丸」が入港したのもこのサントス市である。

本県出身の移住者やサンパウロ州議員野田次平氏(佐賀県出身)からの申し入れにより、昭和47年7月6日姉妹都市提携を行う。昭和49年にサッカーの神様ペレ選手(当時サントスFC所属)より寄贈されたペレ杯を記念して、毎年『ペレ杯争奪少年サッカー大会』を開催している。

昭和52年に長崎市に「サントス通り」を設置。昭和63年には本市へ平和モニュメントが寄贈され、平成3年にはサントス市で原爆展が開催される。

ポルト市

ポルトガル北部に位置し、リスボンに次ぐ第二の都市であり、ドウロ川河口に開けた人口約26万人の港湾都市。ポルトガルで最も古くから栄えたこの街は長崎とよく似た坂の多い石だたみの街で、教会や大寺院などの歴史的な建物が多く、ポルト歴史地区は世界遺産にも登録されている。

主な産業は商工業、水産業であるが、特に、ポートワインの名で知られるワインの産地として世界的に有名である。また、海の貴婦人と称されるポルトガルの海軍練習船「サグレス号」は四度にわたる寄港により長崎市民に広くその名を知られている。

長崎駐在ポルトガル名誉領事清島省三氏を介して意向打診を行ない、昭和53年5月26日姉妹都市提携を行う。

昭和55年に本市へ平和モニュメントが寄贈される。

ミデルブルフ市

オランダ西南部に位置するジールランド州に属し、12世紀に創立された古い都市で、17世紀初めにアムステルダムなど5都市と共にオランダ東インド会社を設立した。当時は貿易港として栄え、出島へ向かった船もこの港から出帆した。市内随所に歴史的遺跡、教会、建物等が散在し、歴史と文化の調和した石だたみの街として訪れる観光客も多い。臨海工業都市としての発展もめざましく、オランダ西南部の政治経済の中心をなしている。

駐日オランダ大使館、長崎駐在オランダ名誉領事鈴木従道氏を介して提携の申し入れがあり、昭和53年10月17日姉妹都市を提携を行う。

昭和63年から平成7年まで両市の協力により発展途上国支援を行うなど、文化、教育交流に加え、ユニークな姉妹都市交流を行っている。昭和58年に本市へ平和モニュメントが寄贈される。

福州市

中国南部に位置する福建省の省都として2100年の歴史を誇る貿易の街として栄えた人口約680万人の都市。馬尾港は福建省の貿易の拠点成している。天然資源が豊富で、特に石細工、木彫りなどの美術工芸品や漆器は海外によく知られている。また、本市在住華僑のほとんどが福建省の出身であり、今日の長崎に伝わる中国文化の多くは福建省からもたらされたものが多い。なかでも、長崎の四福寺(崇福寺・興福寺・聖福寺・福濟寺)の本山である『万福寺』はもとは福州市に所在しており、重要文化財『眼鏡橋』も福建省出身の僧の手によるものである。

中日友好の船「明華号」の長崎訪問の折に中日友好協会会長廖承志氏に要望書を託し歴史的なつながりをもとに、昭和55年10月20日友好都市の提携を行う。

公式訪問団の相互受入や教育交流に加え、特に水産農林、水道などの分野における技術交流が盛んに行われている。

ヴォスロール村

パリから西へ250kmの距離にあり、フランス北西部のノルマンディー地方中部海岸部にあるカルバドス県に属している面積7.6km²、人口約350人の村。

村の中をオール川が流れ「オール川のほとりにある豊かな土地」というのが村の名の由来である。主な産業は農業および酪農で牛乳、バター、チーズ、シードル(リンゴ酒)やカルバドス(リンゴブランディー)の名産地で、外海地区の人々を救済するため私財を投げ打って社会福祉事業に貢献したマルコ・マリ・ド・ロ神父の出身地。

ド・ロ神父の研究家のヴォスロール村への訪問をきっかけに旧外海町から提携申し込みの打診をし、ド・ロ神父の人類愛の精神を引き継ぎ、国際平和の促進に役立てようと昭和53年5月28日に姉妹都市の提携を行う。平成17年1月4日、旧外海町との合併に伴い、長崎市に引き継がれる。

市民友好都市

アバディーン市

日本の近代化に多大な貢献をしたトーマス・グラバーが幼少期に過ごしたスコットランド北東部の人口約21万人の港町。イギリスで4番目に古いアバディーン大学を有するなど、古い歴史を持つこの街は、花崗岩の産地でもあり、街中には重厚な石造りの建物が建ち並び、「花崗岩の街」とも呼ばれている。北海油田が発掘されて以来、資材、食料などの補給基地として街の経済は発展してきた。

長崎市とアバディーン市はトーマス・グラバーとの歴史的なつながりがあり、また、両市のロータリークラブが平成8年からトーマス・B・グラバー奨学生相互派遣を行うなど市民が主体となった交流が行われていることから、長崎市が提案し、平成22年7月12日に市民友好都市提携を行った。

中山市

中山市は、中国の民主革命家である孫文(孫中山)の故郷であり、人口は約312万人。広東省の珠江デルタの中南部に位置し、近隣には広州・香港・マカオがある。市内にはハイテク産業開発区が設置され、日本などの外資系企業も進出しており、家電、電子部品、自動車部品などの生産基地として、工業化が進んでいる。

中国における辛亥革命から100周年にあたる平成23年、革命の指導者である孫文と、孫文を物心共に支援した長崎市出身の梅屋庄吉の歴史的な友情を顕彰し、市民や民間レベルでの交流を促進するため、平成23年9月30日に市民友好都市提携を行った。

ライデン市

ライデン市は、アムステルダムから南西36kmに位置する南ホラント州(州都はハーグ)の基礎自治体で、人口は約12万人。周辺自治体のための商業・貿易センターとして重要な機能を持つ。オランダ独立戦争では、スペイン軍に徹底抗戦して勝利し、これを記念してウィレム一世が1575年にオランダ最初の大学であるライデン大学を設立した。1830年に出島の商館医シーボルトが長崎を離れたあと、日本学研究を行った都市であり、国立民族学博物館やシーボルトハウスなどに、日本での収集品が数多く保管されている。

すでに長崎大学とライデン大学間で学术交流が行われていたこともあり、平成23年9月、長崎市から市民友好都市提携の申し込みを行った。翌平成24年には、シーボルト記念館・出島とシーボルトハウスが友好館提携、出島がライデン国立民族学博物館やライデン大学人文学部との協力提携を行うなど交流が更に活発となり、平成25年2月4日に市民友好都市提携を行った。

ヴェルツブルク市

ヴェルツブルク市は、ドイツ観光街道の代表であるロマンティック街道の起点で、面積87.63 km²、人口13万人の都市。

19世紀に出島の商館医として赴任し、日本の近代化に大きく貢献したシーボルトの生誕地で、市内にはシーボルトに関係する団体がある。シーボルトの次女ヘレーネの末裔ブランデンシュタイン・コンスタンティン・ツェッペリン氏が会長を務めるドイツシーボルト協会も存在し、同協会は、ヴェルツブルク市から旧ヴェルガーブロイ(市民醸造所)を無償で借り受け改装後、シーボルト博物館を開設している。

また、シーボルトの出身大学であるヴェルツブルク大学と長崎大学との間で、交換留学生の相互派遣が行われており、市民レベルでの人的交流も行われていることから、平成25年4月17日に市民友好都市提携を行った。